

# OB 通信 Vol.1

平成13年7月発行

発行者：〒753-0841 山口市吉田 1677-1

山口大学体育会ワンダーフォーゲル部 OB 会事務局

URL <http://www.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~tabidori/>

E-mail [tabidori@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:tabidori@yamaguchi-u.ac.jp)

## はじめに

山口は日増しに暑くなり、田んぼの稲の緑が眩しく目に映ります。OBの皆様方におかれましてはお変わりなくお元気でしょうか。3年生以下現役部員たちは前期試験もなんのその、夏合宿に向け毎日汗を流しております。ワンゲル最大の行事といえる夏合宿、最高の思い出を作ってほしいと思っております。

さて、平成13年度OB会がスタートし、昨年度事務局を務められました有馬啓介氏の後任として、今年度は私、崎間公久(理学部 本部前主将)が事務局を担当させていただくことになりました。また、工学部前主将の佐伯英敬にも事務局の補助をしてもらっています。

会長・副会長の決定、本部と工学部との合同化と、山口大学ワンダーフォーゲル部OB会は今重要な分岐点にあると思います。自分達がどれだけこれからのOB会の基盤を作るのに役立てるかわかりませんが、佐伯と2人でがんばっていこうと思っております。行き届かないことがありましたら、御指導、御鞭撻のほどよろしく願い申し上げます。尚、OB会についての御意見、御質問等ございましたら下記の連絡先までお願いいたします。

### 事務局

崎間 公久

### 工学部代表

佐伯 英敬

# OB会の活動について

## (1)平成12年度OB会活動報告

平成12年度のOB会の活動も無事終了するに至りました。これもひとえにOBの皆様の御協力のおかげであり、大変感謝しております。また、事務局の不手際でご迷惑をおかけしたOBの方々にはこの場をお借りしてお詫び申し上げます。

さて、平成12年度は以下の事項を柱に運営していきました。

- 1 本部OB会と工学部OB会の統合
- 2 OBが参加しやすいOB会作り(ホームページ作成など)

OB会の統合については運営面でまだまだ課題が山積しているようです。平成13年度は本部と工学部、両OBの皆様のご意見を考慮し、OB会の発展のために確固たる基盤作りをしてほしいと願っております。

現在のところ残念ながらOB会は本当の意味でOB主導のものではありません。そのような中で、大先輩である本部第3期の末國弘司氏が会長を、本部第5期の木山克彦氏が副会長を引き受けてくださったことはOB会にとって大きな前進でした。そして、3月に本部OBの國清氏、工学部OBの堀江氏、後輩の崎間君、佐伯君の協力のおかげで山口大学ワンダーフォーゲル部のホームページが出来上がりました。

昨年度は40周年記念行事があり、OBと現役部員との交流が図られ大変よかったと思います。このような機会が今後も増えればよいのではないかと思います。そして、OB会のさらなる発展のためにも現役部員が開催する行事への参加だけでなくOB会が自ら主催する行事を作る必要があると思います。OBと現役部員がよい意味で刺激しあってこそ、山口大学ワンダーフォーゲル部に輝かしい未来が生まれるのではないのでしょうか。

私もついにOBの仲間入りです。1年間本当にありがとうございました。

平成12年度OB会事務局担当：有馬啓介(本部第39期)

## (2)OB総会－平成13年度活動方針

### i)活動方針

前号のOB通信にもありましたように、去る平成12年11月3日、平成12年度OB総会が行われました。この総会以降、本部OB会と工学部OB会の統合、OB会会員資格の明文化という大きな議題を決定するための準備として、工学部35期の堀江氏と本部39期有馬氏を中心に名簿の整備が行われました。

また、前回のOB通信で、工学部OBの方々にアンケートを同封しましたところ、現在の回答数は約30ほどで、大半は本部とOB会を合同とすることに賛成の意見です。

OB会はOB全体によるものなので、できるだけ多くのOBの方々からご意見をお聞きする必要があります。以下の会長、副会長の文章をご一読の上、思うところがございましたら、是非ともOBの皆様方のご意見を事務局までお寄せください。

### ii)会長より

#### 交流促進と、地盤固めと

～OB会へ、改めてご意見を～

暑中お見舞い申し上げます。OB諸氏におかれましては、益々ご健勝のことと、お喜び申し上げます。世情は永らく閉塞鎖した感が続いておりますが、それも多少は風が通ることを期待させるような、昨年

の状況とはなっておりませんでした。

OB会にあっても、今年度は一つの転換の年にできれば、と存じています。

昨年11月3日に開催されたOB総会で改革への希望が出され、その意向を踏まえての試案を、12月発行の「OB通信 No.2」に掲載いたしました。OB全委員の動向を把握しているわけではなく、送付漏れや遅れてお届けしたOBも多々あったようですが、それでも名簿の整備に努めた結果、例年よりは数多く送る事ができたようです。

組織再編、立直しを標榜するからには将来への展望が必要であろうと試案を提示した次第ですが、これについては改めてOB諸氏の意見を求めたく思います。

表立った意見というよりは、いろいろと漏れ聞くところによれば、やはりOB諸氏にはそれぞれの思いがあるように感じます。提示した試案については、一応の将来像を描けばこのようになるであろう、との方向性の一つとして受け止めていただければ、十分です。現実の運営方法としては、まずはOB会員間の疎通……親睦を図ることが第一であろうと思っています。世代を越えての、同じワングル仲間としての連帯感が熟成されれば、会の方向付けも自ずからできるでしょう。そのための参考試案、と受け止めてもらって結構です。

ただし、実際にOB会を運営していく上で方針は必要ですから、とりあえずは試案に沿った形で進めてみたいと思います。そこで改めて試案の概略を提示するとともに、今年度のスケジュール等を示しておきたいと存じます。

#### 一、本部OB会と工学部OB会の統合

基本的には統合の方向で集約されつつある、と解釈しています。しかし、これは工学部の意向を最大限に尊重したいと思っていますので、その意向が集まるのを待ちたいと存じます。ただし、一括しての移行という訳ではなく本人の希望があれば、実質的に本部OBと同一に扱っていきたいと思っています。これは農学部も同様です。

#### 二、OB会員資格

OBの中には、卒業を期にOB会から離れたいと意向を持っておられる方もあるように聞いています。会員資格を厳しくしてはどうかとの意見が総会で出されました。そこで会員資格として、

①山口大学に在学中（卒業時ではない）にワングルフォーゲル部（学部は問わない）に在籍した経験を有し

②OB会に入会の意志を示した者

をもって構成する、との試案を出しました。入会の意思表示は、簡便かつ確実な方法として会費の納入をもって代えます。滞納の場合は半年毎に督促状を出し、3回でもって自動的に打ち切り退会とします。納入があれば復活します。これは今年度会費の納入から発効させます。

#### 三、OB会の目的、組織

前掲の会員資格の厳格化は、組織であるからには、全く纏まりのつかない団体ではいかなものかと考えるからであります。

OB会はずまず会員間の親睦を図り、現役部員を多面的にサポートし、併せてOB会としてもさらなる向上を目指すところに、目的があろうかと思えます。この目的を達成するために必要な組織固めをする方針であります。そのために、まずは親睦を図ることからスタートする意味でも支部の結成を急いでおります。東京ではOB諸氏の交流がもたれているようですが、できれば早急に支部として発足できればと思っています。その他各地のOB諸氏の積極的なご協力を切望します。

#### 四、OB会の名称募集

OB会として新たな一步を踏み出すために、OB会のワッペンを作ってはどうかとの意見が出され、前掲OB通信で名称の募集をしました。ここで改めて、正式に募集致します。採用分には賞品をお出しするとともに山大ワングル部の歴史にその名を記録いたします。

#### 五、OB会会則

前掲OB通信に、前述のような内容を込めた会則案を掲載いたしました。ここでは再録しませんが、不明の方は問い合わせください。

前後しますが、工学部、農学部 OB の統合については、まだまだ流動的に要素があり、また会計についても、これは OB 会の性格にも関係してきますが、種々ご意見があるように聞いています。統合については関係学部 OB との意見交換をさらに重ねていき、現実的な方向を出したいと思います。

また、会計については、例えば各支部への補助、OB 会総会を持ち回りにしてイベント等を企画する、などの試案もありますのでさらに煮詰めて、できれば次回にでも提案したいと考えています。

最後になりましたが、今年度の OB 会総会は 2002 年 2 月ころ、4 年生部員の追い出しコンパ開催に合わせて開く予定にしています。その総会を、新しい OB 会の発足にしたいと考えています。組織としてはまだ未整備な部分の方が多く残ることは承知の上で、まずはスタートして徐々に整えていく方針です。しかしこれは OB 諸氏のご協力がなければなし得ないことであり、改めてご協力をお願い致します。

OB 会会長：末国弘司

### iii) 副会長より

昨年の総会の折は入院中で出席出来ず、罰として副会長を仰せつかった。

長い間単身赴任で遠方に居たので、久々に出席しようと思っていたが、祖母山頂付近で左足を骨折し病院の Bed の中に居る時の事である。

末国先輩が会長に着かれ、手伝いをさせて貰う意味合いでお引き受けした次第である。

諸氏よりの連絡に依ると、各地区での集まりや、個人的な範囲内での連絡やお付き合いは結構盛んに行われているようですが、当然の事ではあるが年齢的に不連続な状態であるとも聞いている。

小生も東京に赴任中は充分なる面識が有った訳ではないのに、幹事の武富氏より心温まるお誘いを受けて「YUWV—OB 東京支部会」に出席させて貰い、多くの方々と歓談の機会を得たし、更には此れがご縁で現役時代を全く知らない者同士の新たな関係をも出来上がっていった。

懇親会を中心にして、たまには日帰りの山行きや温泉浸り等、OB 会ならではの得難い楽しい数年を過ごさせて頂きました。

古の「YUWV」が現在の OB 個々人の胸中でどのような「存在」であるかは個々人異なり、全てを集合すれば大変幅広いものにもなる。

そういう意味合いを念頭において OB 会の絵姿を鑑みるに私見ではあるが、OB 会の性格付けとか方向性とかを云々する理屈先行に陥ることなく、身の丈に合った形での内容に留め、多くの方が親近感を持てる最大公約数的な姿である方が、誰でも気楽に受け止められ、現状の OB 会の形態として良いのではないかと考えている（納入いただく会費の使途にも関連する事なので、...）。

これらは会長のお考えなり、今後の総会でもって決定されてゆくものだが、皆さんの本音は昔を懐かしむ面々との懇親会をメインとし、たまには軽く歩む機会を織り込む程度の「軽山重飲」が理想なのではないかと思うのですが如何でしょうか？

当面は住所掌握、会員と会費納入との関係等を含めた基本的な運営方法を軌道に乗せる必要がある状態で、ご意見、情報等皆様にもご協力を戴くことも多々有ろうかと思われま。

その節は宜しくお願い申し上げます。

OB 会副会長：木山克彦

## (2) YUWV ホームページ運営開始

<http://www.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~tabidori/>

### i) ホームページについて

すでにご覧になっている方も多いと思いますが、1 年程前から提案があったホームページ（上記 URL）が、3 月 5 日から本格的に運営を開始しました。運営にあたっては、OB 会事務局同様、崎間と佐伯で行っております。現役部員の活動報告をより詳細に、リアルタイムに行っています。開設から約 4 ヶ月が過ぎましたが、OB の方も掲示板に書き込んで頂いたり、現役部員と OB の方の距離



をより身近にするのに少しは役立っているかと思います。

まだ現役側の情報がメインで、OB会のほうは情報不足ですが、OBの方からの情報提供があればより充実した内容になると思います。これからホームページがOB会活性化に少しでも役立つために、OBのみなさまのご協力を切望します。

閲覧にあたっては、上記 URL を直接入力するほか、YAHOO! やインフォシーク等の検索サイトで「山口大学ワンダーフォーゲル部」のキーワードで検索可能となっております。まだご覧になっておられない方はぜひ見てください。

ホームページ開設、運営にあたり、技術的な面で國清氏（本部 37 期）にはたびたびのご協力、助言をいただきました。この場をおかりしてお礼を申し上げます。

## ii) インターネットを利用した OB 通信発送方法

現在郵送している OB 通信ですが、昨年度より工学部 OB の方にも発送を開始しましたので、部数、ページ数も増え、OB 通信の作成作業も年々大変になってきています（今回約 500 部発送）。Eメールで OB 通信を送っても良いとおっしゃる OB の方も多くいましたので、今後はこの発送方法も行おうと思います。例として、次の方法が考えられます。

- 1 全てテキストメール（通常のメール）
- 2 Word 文章（OB 通信本紙）、Excel データ（名簿）を圧縮し、メールに添付
- 3 現役の活動報告はホームページで閲覧、会計報告や名簿などホームページに掲載できないもののみメールで送る
- 4 OB 通信は通常通り送り、行事連絡の返信用はがきの代わりにメールを利用する（返信用はがきは同封しない）

次回発送時からメールによる送付にご協力いただける方は下記アドレスにご連絡ください。このとき、希望する発送方法をお教えてください。上の方法以外のものでも結構です。今回のファイルサイズは、本文の Word 文章そのまま約 160 k B、圧縮して約 75 k B です。

## iii) OB 会用掲示板設置

ホームページに OB 会用の掲示板を設置しました。今後の OB 会についての意見交換、連絡用にご利用ください。また、希望があればメーリングリストの開始も考えます。

## (3) OB 会費

今年度の OB 会費の納入をお願いいたします。尚、1 年分納入と、5 年分一括納入の 2 種類ありますので、どちらかでお支払い下さい。

1 年分会費----- 2000 円

5 年分会費一括納入----- 10000 円

尚、納入先については以下のようになっております。一昨年度までは第一勧業銀行も納入先でしたが、利用者がいらっしやらないこともありまして、昨年度から郵便局のみとさせていただきます。御了承ください。

**郵便局：01530-0-16050**  
**山口大学ワンダーフォーゲル部**

尚、郵便局の振込用紙を同封しましたのでご利用ください。  
※会費を口座に振り込んで下さる際、口座引き落としにされると当方に明細書は届くのですが、振り込まれた方の御名前が通知されず、当方で確認が取れません。払込用紙を使って振り込んでいただくと、その払込用紙のコピーが当方に届きますので、お手数ですが払込用紙を使って会費を納入して下さいますようお願い申し上げます。

- ※ 下記の方は一括納入されているため、払込用紙を同封しておりません。( )内の数字はその年度分まで会費を払われているということです。
- ※ 工学部 OB 会費については、会計をどのようにするのかという事と、入金開始時期がはっきり決まっていないため、次回 OB 総会にて入金のスタートラインをそろえようと思います。したがって、支払い済み年度についてはそれまで保留という形にしたいと思います。
- ※ 前回の OB 通信で、本部第 6 期の米沢和彦氏はすでに平成 13 年度まで OB 会費を納められていたにもかかわらず、こちらの手違いにより掲載されませんでした。また、本部第 7 期の山本信義氏は平成 20 年度まで OB 会費を納入されていました(平成 21 年度は誤りです)。この場をお借りしてお詫びを申し上げます。<有馬啓介

## (4)平成12年度会計報告

平成12年度分会費	¥206,000	
支出	¥263,319	
・OB通信第1号発送関連費(7月)		¥81,222
・40周年記念行事の案内、		
・OB通信第1号住所判明分郵送費(10月)	¥10,819	
・40周年記念行事関連費(11月)		
	部旗	¥64,000
	OB総会	¥2,840
・OB通信第2号発送関連費(12月)	¥104,438	
差額	－¥57,319	
OB会費総額	¥953,930	

OB通信の工学部OBの皆様への発送、40周年記念行事等あり、平成12年度だけでみれば赤字となりました。しかし今年度より会費納入者のみに会報を発送するというシステムにしていきますのでこのようなことはなくなると思います。OBの皆様には今年度以降も引き続き会費納入をお願いする次第であります。

平成12年度OB会事務局担当：有馬啓介(本部第39期)

## (5)OB会名簿

最新版のOB名簿を添付いたしましたのでご利用ください。間違いや変更点等あれば事務局までご連絡ください。また、空白の部分で、同期または同地域の方でご存知の方がいらっしゃいましたら、御一報下さりますようお願い申し上げます。

また、Eメールアドレスもお教えください。

## (6)新OB紹介

－本部第39期卒部式並びに追コン無事終了－

－工学部卒部式並びに追いコン無事終了－

去る平成13年1月に山口市内の太陽堂旅館で本部卒部式並びに追コンが行われました。工学部のほうは、すでに4年生が横浜で就職されていた為、追いコンには参加されませんでした。工学部35期の堀江さんが修士課程を終え、2度目の追いコンに参加されました。

計5名の先輩方が山口大学ワンダーフォーゲル部を飛び立たれ、OBの仲間入りをされました。皆様のますますの御活躍をお祈りいたします。

## (7)OB 通信

今回の OB 通信は、夏合宿結果と OB 総会の案内を中心に、12 月頃発行の予定です。

# 現役部員近況報告

## <本部編>

### (1)平成 12 年度春合宿報告

#### i)西表島 Party

3/2~3/11 に西表で春合宿を行ったので報告いたします。ジャングルを渡り、浜を歩くコースでした。P-men は 1 年 2 人、2 年 3 人、3 年 2 人の計 7 人。抑えのきかない激しい P-men 達でしたが、笑いの絶えない楽しいパーティーでした。

#### AP(3/2~3)

湯田温泉を出て鈍行、地下鉄、飛行機を乗り継ぎ、ついに沖縄本島上陸！同じようなザックを持っている人がいっぱいいる。どんどん南に近づくにつれてわくわくしてくる！沖縄本島からは 1 4 時間かけて船で石垣島へ。そこではもちろんタコライスを食べる。さあ、ついに西表へ出発だ！！

AP のテン場、南風見田の浜はやっぱりステキ！青い海、白い砂浜、でも異常なテンションの P-men 達・・・ガッチは 1 年生に笑いを持っていかれて悔しそうだ。ここは最終日にもまた来る予定。無事戻ってこられますように。

#### 1 日目(3/4)

まだ真っ暗なうちにタクシーに乗り、ジャングルを目指す途中、小雨が降り出す。タクシーを降りカッパを着て、まずは林道を登っていく。まだまだ暗く少し怖い。それでもサクサク歩いてヤエヤマヤシ展望台に到着。雨もやみ、やっと明るくなってきた。展望台には他大学のかわいいうさぎさんがたが！ジャングルの道なきブッシュを進む予定らしい。すごい！ハブには気をつけましようとの約束をしてまたサクサクと林道終点へ。

さあ、ジャングルだ！道はわりとわかりやすい。最近遭難が相次いでいるため新しくテープをつけたらしいが、それに従えば驚くほどスムーズに進めた。さっそく渡渉もあって、T 部君少し足が浸かる。テン場の第 1 山小屋跡は、わりと広くいいところだった。私たちがテントを立てた後、都立大・京都府立大の方たちが来られてテン場はすぐいっぱいになった。そして都立大の方に豚の頭をいただく。ミミグーだー。この日はスムーズにいけてコースタイムも半分くらいに縮まった。明日もこの調子で！

#### 2 日目(3/5)

本当にいろいろなことがあった一日だった。マヤグスクの滝に向かう途中、ルート上で 90 度の崖になっているところがあった。いちおうロープはついているのだが、とても怖かった。PL の私がザックごと滑り落ちてしまった。悪い見本を見せてしまって反省…。他にも、倒木の下の狭いところをくぐったり、滑りやすい石の上を渡ったり、そうやってなんとかたどり着いたマヤグスクの滝はなんともいえないものであった。階段状になったところを水が止まることなく流れ落ちる、とても幻想的な場所だった。滝を上から見た P-men の 2 人は本当に神がいそうだったと話していた。

ずっと見ていたかったが、もう時間はない、第二山小屋跡に向かう。テン場で今日も渡渉で濡れた足を乾かそうと靴下を脱ぐと！つ、ついに指の間にヒル発見！タバコの火を近づけると離れるとよく聞くが、虫刺され用のスプレーのほうがすんなり離れてくれるようだ。自分の装備から何匹もヒルが発見された F くんはすっかりヒル恐怖症になってしまった。

テン場で逆のルートから岡大探検部の方が来られた。またまたさわやかな方たちで、うきうきしてしまった・・・。

#### 3 日目(3/6)

今日はカンピレーの滝、マリウドの滝と昨日に引き続き幻想的な世界に酔いしれた。この辺は観光客も多く、久しぶりの下界、という感じ。道もしっかりしている。ジャングルともしばらくお別れ。2日も天気にも恵まれて本当に良かった。

サバニで昼食をとり、長いロードだ。とても暑く、錬成を思い出させた。白浜に着くと、明日は北よりの強い風が吹くため、船が出せないかもしれないと聞かされる。ちょうど満潮の時間だったので今日中に海を渡り、ウダラ川河口で1泊することにして、ゴリラ岩を左手に見ながらウダラ川を目指した。

#### 4日目(3/7)

沈。朝方は晴れていたが、出発の時間が近づくにつれて雲行きが怪しくなって雨が降ってきたため、沈決定。

#### 5日目(3/8)

この日は小雨から始まった。しかもさっそく深めのウダラ川渡渉だ。膝までジャブジャブ浸かってもう怖いものはない！という感じだ。じめじめしたマングローブの中を歩いて、また渡渉。今日の川は本当に深かった。SL、深みにはまる…。腰までの川をずんずん進み、やっとジャングルに入る。雨上がりで滑りやすく何度かこけたけれど、テープもあり、ほとんど迷わず進めた。

テン場の鹿浜はとてもいいところだった。昔住んでいたといわれるおじいさんの家もあった。

#### 6日目(3/9)

今日は大変な1日だった。クイラ渡りで迷ってしまった。まずクイラ渡りの入り口がはっきりと見つからず、それらしいところから入った。はじめはあった道がどんどんブッシュに変わっていく。途中、正規のルートに戻れたから良かったものの、私の調査不足だと反省している。

リーフ歩きは、沖のほうまでずっと浅いという山口では見ることのできない光景で、とても楽しく、気持ちのよいものだった。テン場、クイラ浜で見た夕日は絶対に忘れることはないだろう。

#### 7日目(3/10)

一日リーフ歩き。途中、駒沢大のパーティーと擦れ違う。女ばかりの8人パーティー。写真を撮って別れる。

合宿最後の夜エッセンはスペシャルカレーだ！ふえるわかめちゃんと差し入れの餅入り。わかめ入れすぎじゃー!!!でも、どうしてここは別れ浜と名づけられたのであろうか?なんてことは話題にのぼらず、いつものようにアホ話をしながら最後の夜は更けていった。

#### 8日目(3/11)

きょうもまた、腰まで浸かってしまった。ずっと沖のほうまで出てリーフ歩きをしていたら、南風見田の浜が近づくにつれリーフが狭くなり、浜に戻るのに深いところを通らなければならなくなった。しかも戻る途中ウミヘビと遭遇。早いうちに浜歩きをするべきだった。でも無事に南風見田の浜に戻ってこられて本当によかった。同じ浜でも7日前とはなんとなく違う景色だ。とてもすがすがしい。

しずくを垂らしながらロードを歩き、大原で合宿終了。おつかれさまでした。下山ビールはオリオンビールだ。

出発前のパーティー行動も含め、私自身反省は多く、いろいろなことがありましたが、本当に楽しい春合宿でした。P-menに悩まされ、P-menに助けられた約2ヶ月間でした。6人には本当に感謝しています。

また、西表はとてもいいところでした。天気にも恵まれ、暑すぎることもなくちょうど良い気候でした。海も空もきれいで、気持ちが良かったです。ぜひ、また後輩の誰かが西表合宿をたててくれるといいな、と思っています。

最後になりましたが、この西表合宿を立てるにあたって、たくさんの助言や励ましの言葉を下さった多くの先輩方に深く御礼申し上げます。ありがとうございました。

PL：下村公子

#### コースタイム

<1日目> 南風見田 → 林道入口 → ヤエヤマヤシ展望台 → 林道終点 → 第一山小屋跡  
5:07 (タクシー) 6:00/6:20 6:40/6:55 7:38/7:55 11:07

計7本 3:23

<2日目> 第一山小屋跡 → 中間広場 → イタジキ川出合 → マヤグスクの滝 → 第二山小屋跡  
6:49 7:22/7:42 11:17/12:00 12:21/12:50 13:51

計9本 4 : 26

<3日目> 第二山小屋跡 → マリウドの滝 → カンピレーの滝 → マリウドの滝  
6:56 8:55/9:02 9:09/9:33 9:45/9:50  
→ マリウドの滝展望所 → 軍艦岩・船着場 → 浦内橋 → 祖納小  
9:59/10:20 10:40/11:05 (サバニ) 11:20/12:05 12:45/13:00  
→ 白浜 → 砂山小屋跡  
14:20/16:30 17:05 10本 6 : 11

<4日目> 沈

<5日目> 砂山小屋跡 → 鹿川  
10:12 12:54 計3本 2 : 08

<6日目> 鹿川 → 岩場 → クイラ渡り入り口 → クイラ浜  
9:56 10:25/11:27 13:41/14:10 16:32 計5本 4 : 19

<7日目> クイラ浜 → サザレ浜 → 別れ浜  
11:30 12:37/12:50 14:10 計2本 2 : 2

7

<8日目> 別れ浜 → 南風見田の浜 → 豊原 → 大原  
12:45 14:19/14:40 15:21/15:35 16:05 計3本 3 : 02  
総コースタイム 7泊8日(1沈) 総計39本 25 : 56

## ii)サイクリング Party

今年3月21日~28日サイクリング合宿を行いました。PLの自分がサイクの合宿に参加したことがなく、不安でしたが、サイクリング部のトレーニングに参加したり、自転車の勉強を徹底的にしたおかげで合宿はなんとか成功に終わりました。山での合宿と違い、常に下界で観光地やコンビニがあり、エスケープに気を使わなくていいサイクリング合宿は少し不思議な気分でした。

幅広い活動ができる春合宿ですが、今回は人数不足で2 Partyしか作れず、もっとコースに変化をつけようと1日だけ登山を加えました。考えと努力次第で春合宿はいろいろな形態が可能だと思います。自分の立てた合宿は、たいしたことではありませんが少しだけ変化をつけられたので、この点には満足しています。

3年1人、2年2人、1年2人の計5人でしたが、1年生の1人が途中から休部したため、合宿は4人となりました。全員で行けなかったのが今でも残念です。ちなみにその1年生は、4月から復部して元気に活動しています。

アプローチ (3/21)

6:01 湯田温泉駅を出発。OBの方や県立大の方、現役部員から持ちきれないほどの差し入れをいただき、輪行袋に入った自転車を担いで出発です。この輪行袋、持つところに何の工夫もされていないので運ぶのに一苦労でした。

数時間後、大分県の中津駅に到着。ここで自転車を組み立て、1時間ほどでキャンプ場に着きました。誰もいなかったのが、昼寝をしながら2時間ほど待っていると、キャンプ場の主が帰ってきて、山大のワングルであると名乗ると、預かっているものがあると言います。なんと、工学部からの差し入れで、大きなザボンほかいろいろもらいました。山口から離れた地で、ワングル仲間の足跡に感激しました。

1日目(3/22)

明け方から出発。しばらくは旧鉄道を舗装したサイクリングロード約20Kmを快走。サイクリングロードが終わると、徐々に登りが始まり、思わぬ苦戦を強いられました。

峠を一つ越えると下りに身を任せ、あっという間に日田市に到着。9時少しすぎということもあり、時間に余裕があるので少し観光して行きました。充分休憩した後、テン場を目指しましたが、ここから

が長かったのです。微妙な登りになって、気温はどんどん上がっていき、僕らの息もあがっていききました。途中、小さな店で買出しを済ませ、なんとか遊水峡キャンプ場に到着。しかし、へとへと。

そしてこの時、僕の自転車のチェーンがぶち切れました。まさか切れるとは思っていませんでしたが、修理道具は持っていたのでなんとか回復。テン場で切れたのが不幸中の幸いでした。

#### 2日目(3/23)

阿蘇外輪山の最高点、大観峰を目指しひたすら登り。あいにくの曇りでしたが、汗はダラダラと垂れてきました。このあたりのことは何も思い出したくありません。3回ほど休憩した後、ようやく大観峰に到着。晴れば最高の眺めらしいですが、ガスっていたので阿蘇五岳もなにも見えませんでした。残念。

ミルクロードを下って、赤水方面を目指しました。ミルクロードは意外とアップダウンが多く、少々苦戦。しかし最後は豪快な下りで、車と同じくらいのスピードで風のように下りました。

YMCA阿蘇キャンプ場に到着。管理人のおじさんはとても親切な人で、寒かったら使っていていいよとバンガローまで開けてくれました。雨が降りそうだったので、荷物置き場としてありがたく使わせてもらいました。その後、おじさんにまんじゅうまで頂きました。

#### 3日目(3/24)

この日は阿蘇山までのピストンなので重い荷物は無く、サクサクと高度を稼ぎます。早朝のため車も少なく実に快適でした。天気もしだいに良くなってきて、4本で阿蘇火口に到着。途中休憩した米塚付近と草千里ヶ浜展望所は両方ともとてもきれいでした。しかしロープウェイ乗り場から火口までの最後の登りは信じられないほどの急勾配でまいりました。

山頂は、少し観光地化されすぎているのが残念ではあったけれども、雄大さは十分つたわかりました。山頂で気持ちよく昼のエッセン。一休みした後、坂を下りもう一度草千里ヶ浜へ。時間に余裕があったので、草千里ヶ浜の草原の上で1時間ほど昼寝をしました。枯草の下には緑色の芽が吹き出しており、春の訪れを感じさせる草原でした。

昨日と同じYMCA阿蘇キャンプ場に帰りました。昼過ぎから雲が増え始め、3時ごろに軽い揺れを感じ、たいしたこと無い地震と思っていました。山口は大変だったようです。

#### 4日目(3/25)

沈。朝から雨でした。キャンプ場のおじさんに開けてもらったバンガローのおかげで荷物が濡れずすみません。みんな体に疲れがたまっていたので、一日中爆睡です。

#### 5日目(3/26)

朝少しだけ霧雨が降ったが、その後は快晴。3日間いた阿蘇を離れ、九重連山の正面玄関、長者原を目指して出発。国道沿いに走り、やまなみハイウェイに入ります。すぐに急傾斜になり、最高点の牧ノ戸峠まで約800mのアップ。つづら折れを繰り返し、高度を稼ぎます。

意外にあっさり急傾斜の部分は抜け、素晴らしく爽快な高原が現れました。高原に出てしまえばやまなみハイウェイは最高の道です。1時間弱、高原を滑走すると瀬の本に到着。ここで昼のエッセン。再び急な登り。約1時間後牧ノ戸峠に到着。みんなうれしそうでした。少し上の展望所までいき、ひと休み。三俣山がきれいに見えました。

一気に峠を下り、長者原へ。ビジターセンターの交差点を左折するとテン場のくじゅうやまなみキャンプ村です。きれいなオートキャンプ場でした。ここからの買い出しには苦労しました。往復約1時間かけてふもとのスーパーまで行き、2日分のエッセンをまとめて買いました。

#### 6日目(3/27)

この日は1日自転車にらずに、久々の登山。久住山を長者原からピストン。天気はあいにくの曇り。夜明け前にテン場を出発。長者原ヘルスセンターの裏から入山。ロードを抜け、すがもり越に向かいました。3月下旬とはいえ九重はまだ寒く、霜柱が立っていました。すがもり越に着くと、すがもり小屋が直っているのにびっくりしました。去年の春合宿で来た時はぼろぼろでした。北千里ヶ浜を通り、久住山山頂へ。

稜線に出ると風も強く、寒さも一段と厳しくなりました。山頂に着いたころには寒くて水を飲む気もしませんでした。4人全員ストーム、それぞれ思い思いの事を叫びます。自分はワングル3年間に対する別れを叫びました。P-menには気付かれなかったと思いますが、ストームの途中少し目が潤んでいました。山頂ではろくに休憩を取らずに、すぐ下山。寒すぎたので…。

#### 7日目(3/28)

最終日。朝のうち少しだけ雨が降りましたが、出発する頃には晴れていました。爽やかな朝日の中のほとんど下りの道。何も考えずに自転車に乗って、かなり楽に距離を稼ぎました。遠く由布岳がきれい



40期執行部を振り返ってみると、なにか新しいことをしようとしていたにもかかわらず、実際には執行部員の力量不足のせい、たいして変わりばえのない一年間でした。が、元気の良い後輩達のおかげで、部全体の活気は充分にあったと思います。部をつくっていくのは執行部ではなく、部員全員なのだということに気づきました。

合宿は、夏・春ともに2 Party で、夏合宿の1 Party を除いて全コース消化することができました。夏合宿前の一ヶ月ほど前に、主将である自分が交通事故に遭い、右腕を骨折してしまいました。合宿前には完治しましたが、自分の怪我だけだけに冷静に対処できず、先輩や後輩に多大なご心配とご迷惑をおかけしてしまいました。

夏合宿は青春18きっぷとフェリーを使い北海道で行い、アフター・一年生合宿ともに例年とは違う山域に行かせることができました。春合宿は前述の合宿報告の通りサイクリングと西表島で島歩きを行いました。春合宿のアフターも、県内ですが2年生が一件立ててくれました。合宿、アフターに関しては天候にも恵まれ、全体的に良い結果であったと言えます。

昨年度は、年間行事の多い年でありました。学長杯駅伝は残念ながら雨天の為中止となりましたが、普段の行事のほかに、80km耐久徒歩、40周年記念行事や、下関市立大学からお誘いを受けて参加した北九州合ワンなどあり、後期になってからも部の活気が失われませんでした。以上の行事は全て工学部と合同だったので、自然と彼らと合う機会も飲む機会も増えました。また、例年夏休み明けに行われていた前期試験も、昨年度から夏休み前の7月に行われるようになり、合宿の出発時期も変わりました。また、前期試験の後にあった秋休みがなくなったことによって長期のフリーワンを立てる機会が減ってしまいました。この点に関してもう少し工夫をすべきだったと思っています。

私達執行部は、仲は良かったのですが、全体的に詰めが甘く、様々な部分で回りの人たちに迷惑をかけてしまいました。昨年度新入生も多く入れることができず、今後のワングルの衰退に繋がるのではないかと心配していました。このことが気がかりでしたが、今年度は元気でやる気のある多くの新入部員が入ってくれて安心しています。

4人でスタートした私達執行部は、夏合宿後に一人退部し、その後は3人で行ってきました。このようなことになったのも、自分の主将としての部、執行部の取りまとめ方に非があったものと、深く反省しています。この事に対して少しでも償いになればと、微力ながら私達も今年度の新入部員の勧誘に積極的に参加しました。今、こうして第41期に山口大学ワンダラーフォーゲル部を引き継いだことに、感謝の気持ちでいっぱいです。今の執行部を見ていると、私たちが先輩達から受け継いできたものを彼らもしっかりと受け止めてくれているのでそれが何よりうれしいです。

本部第40期主将：崎間公久

### (3) 第41期執行部近況報告

#### i) 新執行部紹介

今年度の新役員、係を紹介します。

主将：	藤井祐介（農3年）
副将、装備、山行技術：	徳永仁亮（理3年）
主務渉外、エッセン、サブトレーナー：	村井容子（人文3年）
会計、気象、オッチェントレーナー：	佐藤慶二（経済3年）
メツェントレーナー、衛生、記録図書：	吉村英子（人文3年）

今年度は去年より1人多い5人となりました。ワングルを愛する篤い人間がそろっています。彼らなら今年度のワングルを盛り上げていってくれるに違いありません。

#### ii) 新ワンダラー誕生！

今年度はオッチェン6名、メツェン3名の計9名の一年生が入部しました。一年生だけで現役の上級生より人数が多く、部がいきなりにぎやかになりました。7月に入った今でも退部者もおらず、一先楽を楽々クリアしたつわもの達です。彼らの今後の活躍が楽しみです。

今年度の部員数は以下の通りです。総部員は昨年度より2名増えました。

---

1年	2年	3年	4年	計
----	----	----	----	---

---

オッチェン	6	2	3	2	13
メツチェン	3	0	2	1	6
計	9	2	5	3	総部員19名

### iii) 第41期執行部スタート！！

昨年度私たちが執行部を持つ際に考えたこととなるべくたくさんの1年生を入れるということでした。それは今年度3年生が5人、2年生が2人の上級生が計7人というおそらく山大ワングル史上初めてという上級生の少なさゆえでした。1年生の指導という観点から上級生と1年生は **man to man** というのが理想です。こと夏合宿に関しては、1年生が初めて長期山行を経験するわけですからなおさらです。では新入生は夏合宿につれて行ける7人しか募集しないのか？それとも夏合宿にはつれて行けなくても7人以上入れるべきか？私たちは本当に悩みました。

ただでさえ部員が減少しているのに7人で勧誘を打ち切るのか？切に入りたいと願っている1年生に本当に入部を断れるのか？8人以上入れてしまってメイン行事である夏合宿に行くことのできない1年生がいていいのか？悩んだ末、私たちはなるべく多くの1年生を入れる、しかしメイン行事の夏合宿には行ってほしい、ということで「10人までは入部することが可能である、が7人はいった時点で積極的な勧誘は止め、7人を超えた分はフォローWに連れて行く」ことにしました。

今とにかく必要なことは部員を増やすこと、部員がいなければ幅広い活動もできないし、それ以前にこのまま減少して行けば今行っている活動すらも行えなくなる可能性がある、しかしあまり多く入れすぎると指導力不足から山大ワングルの現行のレベルを下げざるを得ないと判断し先の様な結論に達しました。とはいっても本当にいっぱい入るのか？7人すら入らないのではないのか？幸いにもオッチェン6人、メツチェン3人の計9人も新しいワングラーが仲間入りしました。9人入ったということで夏合宿にいけるのは7人で遅れて入った2人はフォローWとなりました。1次錬成も例年になく快調に終わり、へたばる1年生を上級生がさわやかに励ます、といった図式が崩れ嬉しいような寂しいような心境です。

そろそろ最大の行事である夏合宿へむけてパーティー行動に入ります。夏合宿は2パーティー構成で行い、執行部の5人が誰もまだ槍も穂高もいったことがないということで、両パーティーとも北アルプスで行い、佐藤パーティーが穂高・槍・常念で、村井パーティーが烏帽子・野口五郎・双六・槍・燕となりました。

申し遅れましたが自分は主将を務めさせて頂いております農学部獣医学科3年生2年の藤井祐介と申します。他の三年生は副将の徳永仁亮、主務・渉外の村井容子、会計の佐藤慶二、記録・図書吉村英子がいます。

私たち5人は執行部です。部を運営して行く責任があります。運営して行く立場になり、ただついて行くだけだった1、2年の頃には想像もできないような苦労がありますが、それを上回る大きな喜びもあります。この執行部を持つ1年間は自分たちのワングルの集大成です。下級生にワングルに入ってよかったなと思われるように、この山口大学ワンダーフォーゲルを更により良いものにしていくために、先輩方に叱咤激励されながら執行部5人で力を合わせ頑張っていきたいと思えます。

本部第41期主将：藤井祐介

### iv) 平成13年度夏合宿コース紹介

#### ■佐藤 Party ー上高地～奥穂高岳～槍ヶ岳～常念岳～一ノ沢ー

この度、夏合宿におきましてPLを務めることになりました佐藤慶二と申します。山域は北アルプス南部の槍・穂高を中心に周辺の山々を登る予定です。コースを紹介しますと、上高地から涸沢に行き奥穂高・涸沢岳をピストンし、槍ヶ岳から天狗原を經由して、南岳～中岳～大喰岳を縦走し槍ヶ岳を目指します。その後、東鎌尾根を通り大天井岳～常念岳を縦走し下山する6泊7日の行程となっています。このコースの見所は、涸沢カール、氷河公園と呼ばれる天狗原、奥穂高・槍・常念からの展望です。巨大な涸沢カールは周りを穂高の峰々に囲まれ、天狗原では池に映る逆さ槍を見ることができ、大自然が造り

出した景色に心を打たれることと思います。

しかし、このコースは鎖、はしごとといった危険箇所が多く、PLとしてP-menの安全を確保させなければならない以上、的確な判断が必要とされます。少しの判断ミスも命取りになりかねないことを肝に銘じ、PLとしての資質を高めていきたいと思っています。

P-menは3回生であるPLの自分と会計の吉村、2回生1人、1回生3人の6人Partyです。6人ということでParty編成的にはちょうどいい人数ではないかと自分は考えます。P-menと一緒に合宿を楽しく成功させるために、Party行動で団結を深め、自ら楽しみ、頑張っていこうと思っています。

PL：佐藤慶二

### ■村井Party 一濁沢～野口五郎岳～双六岳～槍ヶ岳～大天井岳～中房温泉一

“槍に行きたい！”ということで、13年度の夏合宿は北アルプスに行くことになりました。

自分のPartyは、北アルプスの烏帽子岳、鷲羽岳から西鎌尾根を通り槍ヶ岳へ。その後、大天井岳を経て燕岳まで引き続き縦走する6泊7日のコースです。裏、表銀座の縦走路を制覇する、北アルプス屈指の大縦走といえるでしょう。1日目のブナ立尾根は、取り付きから稜線までの標高差約1300mを水平距離わずか2.8キロで登りきる、北アルプス三大急登のひとつです。荷物もまだ重く苦しいところですが、ひとたび主稜線に出れば森林限界を超えた稜線漫歩が待っています。槍、燕など人気の山のピークを踏むのはもちろんのこと、2700～3000メートル級の高山の稜線上で一週間、毎日贅沢な景色に囲まれて過ごせるというのも、このコースならではのものだと思います。

P-menは3年3人、2年1人、1年4人の8人Partyです。少々人数は多めで、しかも元気かつ個性的な者もそろっているので、きっと楽しい夏合宿になると思います。1年生にとっては初めての夏合宿、2年生にとっては初めてのアルプス、そして私たち3年にとっては最後の夏合宿になりますが、全員が心から良かったと思えるような夏になるよう、がんばっていききたいと思います。

PL：村井容子

## v)第37回県内合同ワンデリング結果報告

### ■実行委員長より

5月3、4、5日に長者ヶ原グリーンスポーツ広場にて県合を行いました。主管の山口大学本部、山口県立大学の7人の実行委員が半年以上前から準備してきました。今回のテーマは‘21世紀だ輪～Be My Friend～’と少しダジャレを込めてみました。

去年の11月に北九州合同ワンデリングに山口県連盟の各大学が招かれたお返しに北九州連盟の各大学を今回の県合に招待した結果、北九州市立大学に参加して頂くことができました。また、宇部短期大学と去年から再び県合に参加してもらっていた下関市立大学は部員不足により県合不参加という残念なこともありました。

山行は日暮ヶ岳で行い、恒例となっている運動会では各パーティーごとに非常に白熱しました。キャンプファイヤーも非常に盛り上がり、各大学のスタンプでは我々役員も笑わせてもらいました。今回の県合も例年通り盛り上がり参加者の皆様には楽しんで頂けたのではないかと思います。

これまでは参加者として県合で楽しませてもらう立場でしたが、今回は実行委員として参加者を楽しませるという立場でした。この立場はこれまでとは格段に違う成長をもたらしてくれたのではないかと思います。最後に助言、参加をして頂いた先輩方、本部役員の皆さんに厚く御礼申し上げたいと思います。そしてこれからも県内合同ワンデリングを継続して行ってほしいです。

県合実行委員長：徳永仁亮

### ■AブロックBLより

今年の県合で、自分はBLを務めました。今年は北九州大学からの参加があった一方で、3年生の人数不足で多くの4年生の方にもPLをやって頂くなど、いつもと少し雰囲気が違うこともあり、BLとして県合を盛り上げていけるのか不安なところもありました。

結果として、本部の方、各PLさん、参加者の皆さんのおかげで県合は本当に盛り上がったと思います。自分も普通に楽しんでしまい、BLとして足りないものがあつたのではないかと反省しています。これからも県合が県内、県外の大学との楽しい交流の場になってほしいと思います。

BL：村井容子

## ■BブロックBLより

第37回県内合同ワンデリングでBLを務めた佐藤慶二です。本当に自分がBLといった大役を全うできるかどうか不安でした。そんな不安の中始まった県合でしたが、PLさんをはじめとして各参加の方が異常に盛り上がってくれて、BLとして大変感謝しています。

運動会では自分が率先して楽しんでいただような気がします。キャンプファイヤーの団結踊りのときにはすでに酔いつぶれてほとんど覚えておらず、BLとして何もできなかったことをみんなにお詫びしたいと思います。今振り返ってみると充実した3日間でした。来年の県合も楽しみにしています。

BL：佐藤慶二

## <工学部編>

### (1)平成12年度春合宿報告

#### サイクリング Party ー国東半島～日田～阿蘇ー

アプローチ (3/16)

とうとう春合宿出発の日がやって来た。今回、PLとして合宿の計画を立て、合宿を成功に導く立場にあったので、今までの合宿とは違う責任感と期待で胸がいっぱいそのまま合宿へ出発した。

常盤駅から徳山まで輪行をし、その後徳山港から大分県国見町の竹田津港までフェリーで渡った。フェリーから降り、荷物を荷台に縛り付けると、APのテン場である長崎鼻リゾートキャンプ場に向かった。この日の行程する距離は短く、自転車で快適な道を進むとあっという間にテン場に着了。テン場はとてもきれいで周りの景色は、海に囲まれすばらしかった。15時になると近くのスーパーまで買出しに行き、17時からエッセンを食べた。21時就寝だったが、3人とも20時には寝ていた。

1日目 (3/17)

沈。この日は、残念なことに朝から雨が降っており、1日中雨が降るようだったので、沈にすることにした。みんな、寝たり、読書をしながら暇な一日を過ごした。次の日から晴れの日が続くということで、この日の沈はあまり苦にならなかった。

2日目 (3/18)

5時に起床し、テントから出ると雨もすっかり上がり、雨雲の広がりもなくなっていた。この日の行程距離は約55.2kmで大分県耶馬溪町の青ノ洞門近くのテン場である風水キャンプ場に向かった。

昼からはとても天気が良く、澄んだ青空の中、心地よい風を受けながら、自転車を走らせた。中津市街に入るとサイクリングロードが続き、景色の変化を楽しみながら走っていた。昼のエッセンはまだ満開ではなかった桜の木の下で春を感じながら食べた。エッセンを食べ終わり、30分走ると合宿最初の見所である青ノ洞門に着いた。

青ノ洞門は人が自力で岩を掘り、造ったトンネルが続いていた。観光客も多く来ており、にぎやかな場所ではのぼのぼとしていた。30分くらい観光して、川を挟んだ対岸にある風水園キャンプ場に向かった。このキャンプ場、目の前が青ノ洞門、そして川が流れ、自分にとっては合宿で最も印象に残ったテン場である。この日の買出しのとき、3日後に来る山大本部のサイクリング party への差し入れを買い、それぞれメッセージを残した。差し入れの中には腐りそうなものもあったが、ワンゲラーなら少々のは大丈夫だと思う。18時にエッセンを終え、21時に就寝した。

3日目 (3/19)

この日も快晴。5時に起床し、7時には風水園キャンプ場、青ノ洞門を後にした。始めの20kmぐらいいは、本格的なサイクリングロードが続き、駅の跡や鉄橋、トンネルなどがそのまま利用されている道を実に気分良く走っていた。この道を走っているとき、つくづくサイクリングっていいものだなあと思った。サイクリングロードは山国川に架かる橋の近くで終わり、再び国道に戻った。日田市街に入ると道が、広くなり、多くの車が行き交う中、走行した。日田市街から松原ダムまでは、登りが続き、思っていたより疲労が溜まった。松原ダムの近くで昼食を摂り、それから杖立温泉街をぬけ、遊水峡キャンプ場

に向かった。遊水峡キャンプ場は、山の中にあり、小川も流れていたが、周りには他のキャンプ客もなく、静けさが漂っていた。この日はきつい行程だったので、よく眠れた。

#### 4日目 (3/20)

この日、空にはうっすらと雲が浮かんでいた。遊水峡キャンプ場から国道に戻り、大観峰(標高963m)を目指し、自転車は進んでいった。事前に、大観峰までの登りは、きついということは知っていたが、まさかあれほど、たいぎー(広島弁できついという意味)とは…。大観峰の周辺は、草原が広がり、緑がいっぱいだと思っていたが、ちょうど山焼きの時期だったので、周りは黒かった。大観峰に着くと、展望台まで行き、周りを見渡した。もうその場から飛んでいきたいほどであった。このときの気持ちの表れを写真として残しておいた。周りには観光客が多くいて、はっきりいってこの写真を撮るのは、はずかしかった。

大観峰の眺めを満喫し、残りの日程で行くことになる阿蘇山、山なみハイウェイを目の前にし、一気に阿蘇市街までの下りに入った。しかし、この後エスケープする事態になってしまうとは、誰しも思っていなかった。事は、長い下りの途中で起こった。P-menの1人の自転車が故障したのである。始めは、今まで学んできた修理の仕方では直せると思っていたが、今回の故障は、あまり起こらない故障であったので、自分たちの力では直すことができなかった。よって、この時点でエスケープとなり、合宿は終了した。誰もが最後まで行きたい気持ちであった。また、PLとして、もう少ししっかりした修理技術を身に付けて、P-menにも指導するべきだったと、反省と悔しさが込み上げてきた。

合宿は3日分の行程で終わったが、その間にも、多くの思い出と感動を味わうことができたと思う。今回の合宿で得たことは、サイクリングのすばらしさと楽しさ、そして、山と同様、きつさに耐える根性と強い精神力であった。

最後まで協力してくださった佐伯さん、吉田君には感謝したいと思う。次は、夏合宿へ向け、工学部一同がんばっていききたいと思う。

PL：原和義

#### コースタイム

<アプローチ> 0:35

竹田津港 → 長崎鼻キャンプ場  
12:50 12:40

計1本 0:35

<1日目> 沈

<2日目> 2:00 1:50

長崎鼻キャンプ場 → 黒川の橋の付近 → 212号線・サイクリングロード交差点  
0:40 0:10

→ 青ノ同門 → 風水園キャンプ場

計4本 4:40

0

<3日目>

風水園キャンプ場 → ココアやまくに → 鳥内橋(日田市街)  
0:40 0:40 1:10 1:30

松原ダム → 杖立温泉 → 遊水園キャンプ場

計5本 5:20

<4日目>

遊水園キャンプ場 → 小国町 → 唐笠松 →  
0:20 0:50 0:37 0:40

大観峰 → 下り途中(エスケープ)

計4本 2:27

総コースタイム 3泊4日(1沈) 総計14本 13:02

## (2) 第39期執行部を終えて

3月の春合宿を終え、第39期執行部に幕を閉じることになりました。終わってみれば、先輩方には、非常にご迷惑をおかけいたしました。院生になってからも我々のために多くの時間を割いて、たくさんのアドバイスを頂いた堀江さん、大池さん本当に感謝しております。特に、堀江さんには修士論文や就職活動で忙しい中、安対やOB会など我々に厳しい意見、アドバイスを与えて下さり、また2月に

は我々と共に大山への雪山合宿にも参加して頂き、たくさんの知識も与えて下さいました。また、飲み会にも参加していただき、堀江さんから与えていただいたものは限りありません。感謝の気持ちでいっぱいであります。

昨年度は、春のサイクリング合宿が途中エスケープとなりましたが、自分が実行委員長を務めた県合、南アルプスに行った夏合宿、復活2回目となる80km耐久徒歩、大山への雪山合宿など無事に終えることができました。ただ、本当に無事終えたのだろうか、春合宿を終えて考えました。本当のところは、無事にこなしただけではないものかと、自分自信を疑ってしまいます。無事に終えたのであれば、春合宿でエスケープという形にはならなかったと思います。エスケープの一因は自分にあると思います。自分にもう少し周りを見ることができると視野があれば、もっと後輩へ指導する厳しさがあればと思います。たら、ればを言っても仕方ないのですが、主将として、主将の役割を果たしたのだろうか、自分自信に不満が残ります。

しかし、昨年度は後悔とは別に達成感を持ったものもあります。実行委員長を務めた県内合同ワンデリング、80km耐久徒歩です。自分が実行委員長という立場でいろいろな方に手伝っていただき、本当に素晴らしい行事であったかという、自信はありませんが、自分なりによくやったのではないかと思います。人の上に立つ難しさをこの二つの行事で学びました。また人の上に立つ楽しさ、達成感など自分にとって非常に大きなものを身に付けたのではと思います。すこし自我自賛な気がしますが、人の上に立つことのなかった自分にとって、本当に自信という素晴らしいものを与えてくれました。

この一年間、ぼくは工学部に同級生がいないために一人で後輩二人と共に部を運営してきました。彼らは本当によく一年間僕についてきてくれました。僕の計画した夏合宿（南アルプス縦走コース）では、少々きつくなってしまったところがあり、迷惑をかけてしまいました。しかし、彼らがいてくれたおかげで全コースに行くことができ、非常にうれしく、そして感動しました。厳しかった広河原から北岳への登り、景色の素晴らしかった北岳、農鳥岳、塩見岳、荒川三山そして赤石岳は今でも目に焼き付いています。下山ビールと下山後の風呂は最高にうまく、最高に気持ち良かったです。いっしょに行った二人には本当に感謝しています。後輩たちには、ハッキリとした指導ができたかどうか不安ではありますが、彼らなら、この一年間をしっかりとやってくれると思います。そして、彼らがこの一年間を見事に過すことができたとき、昨年一年は無駄ではなかったと思える気がします。

最後になりましたが、諸先輩方、本当にありがとうございました。僕にとって、この一年は本当によかったと思います。次期執行部に良き一年を…！！

工学部第38期主将：佐伯秀敬

### **(3) 第40期執行部近況報告**

#### **i) 新執行部紹介**

今年度は2年生が1名、工学部ワングルの仲間入りをしました。今年度の執行部の役員、係を紹介します。

主将、装備、トレーナー：原和義(社会建設3年)

渉外、会計、気象：吉田拓也(機械2年)

エッセン、衛生、記録図書：柴崎洋子(応用化学2年)

昨年より1人減りましたが工学部ひさびさのメツチェンも入り、盛り上がっているようです。今年もよりいっそうの発展を期待します。

#### **ii) 第40期執行部スタート!!**

新しい執行部が変わり、数ヶ月が過ぎました。工学部は現役部員全員が執行部としてがんばっております。また、4年の佐伯さん、院生の大池さんにもいろいろと助言してもらい現役部員を見守って頂いています。

工学部現役部員は当初、3年2人、2年2人で活動していました。しかし、5月の中頃、2年生の一人が退部しました。長い時間をかけて彼と部員で話をしましたが、彼のやめるという意味は固く、結果として部をさることになりました。部員一同共に彼とがんばっていきかけたのですが、途中で部をさることになりとても残念な気持ちでいっぱいです。

現在は、3年2人、2年1人の計3人で活動しています。特に今年は、工学部には珍しく2年が女の子

ということで部が明るくなったような気がします。現在までの活動としては、4月に本部と共に新歓登山、5月のゴールデンウィークには県内合同ワンデリング、そして5月末には、本部の山技実習に参加しました。

山技実習への工学部の参加は今年から行うことになり、1年との交流、1年への指導が大きな目的でした。後輩が少ない工学部にとってはいい経験になったと思います。

5月25日には残念なことに、長年工学部部員が慣れ親しんできたBOXが福利棟建設のため取り壊されました。現在は、グラウンドにある小さなプレハブを仮BOXとしています。新しいBOXは、1年半後にできる予定です。

6月には、2年のリーダー養成が始まり読図力、精神力を鍛えています。7月初めには夏合宿安対が始まり、いよいよ夏合宿に向けて本格的な活動がスタートします。今年の夏合宿は3年の吉田がPLを務め、北アルプスに行くことになりました。本部の2 Partyも北アルプスということで、コースは同じというわけではありませんが、同じ山に登るということは嬉しく思います。

今年は、練成、合宿に向けて6月から週3回のトレのうち1回をザックトレにし重いザックに十分に体を慣らすとともに、精神力の向上を目指しています。これからは、夏合宿に向けて活動に力を入れていきたいと思います。また、10月に行う工学部主催の80km耐久徒歩に向けても計画を進めていきたいと思っています。今年も多くの現役部員、OBの方に参加して頂きたいと思っております。今期も工学部執行部一同、1つ1つの仕事に責任をもち精一杯がんばっていきます。

工学部第40期執行部主将：原和義

### iii)平成13年度夏合宿コース詳細

#### 行程予定表

AP 常盤駅-----小郡-----新大阪-----名古屋-----松本-----新島々-----上高地小梨平キャンプ場

APはひたすら電車を乗り継いで上高地まで行き、小梨平キャンプ場で泊まります。

1日目 小梨平----明神----徳沢----横尾----涸沢（6：05）

上高地から横尾までは、平坦な道をひたすら歩き続けます。そして、横尾大橋を渡り登山道に入り、屏風岩を左に見ながら涸沢まで登っていきます。涸沢カール、穂高連峰が壮大に広がっている涸沢キャンプ場でテントを張ります。

2日目 涸沢----ザイテングラード取り付き----穂高岳山荘----奥穂高岳----穂高岳山荘----涸沢岳----穂高岳山荘----涸沢（6:45）

キャンプ場から涸沢小屋に登り、ザイテングラードの取り付きポイントに向かう。ザイテングラードからは、鎖場や鉄はしごとのお出ました。この岩稜を上りきると穂高岳山荘につく。ここから、主峰奥穂高岳と涸沢岳をピストンし、涸沢のキャンプ場まで戻る。

3日目 涸沢----横尾----槍沢ロッジ----槍沢Cp場（5：00）

涸沢から横尾まで下る。そして、そこから槍ヶ岳に向かって槍沢に登り始める。二の俣の吊り橋までは、平坦な登山道である。槍見が原では槍の穂先が垣間見える。そこから傾斜が増していき、ババ平の槍沢キャンプ指定地で、テントを張る。

4日目 槍沢Cp場----水俣上越し分岐----殺生ヒュッテ----槍岳山荘（3:30）

この日は槍ヶ岳肩の槍岳山荘までひたすら登りである。ここから樹林帯を抜ける。大曲を過ぎたあたりから、槍沢の流れはほとんど消え、道はこまかなジグザグを切りつつ急斜面をはいあがっていく感じになる。標高2900mになると、槍ヶ岳はいよいよ大きくそびえていて、槍岳山荘への道が、まるで城壁を登るようにジグザグを切っている。もう一頑張りして槍岳山荘まで登る。

5日目 槍岳山荘----槍ヶ岳----水俣乗越----ヒュッテ西岳（4：00）

御来光を見るために槍ヶ岳をピストンする。ここから、すばらしい360度のパノラマを仰ぎ見る。いよいよ表銀座縦走の始まりである。鎖場や梯子の連続で気が抜けない。水俣乗越まで下り、そこから登りに転じる。ヒュッテ西岳まで三つの岩峰を越えなければならない。

6日目 ヒュッテ西岳----大天井ヒュッテ----大天荘----大天井岳----大天荘----燕山荘（6：00）

今日は稜線縦走のロングコースである。アルペンムード満点の稜線散歩である。お花畑も所々にあり楽しみながら歩く。大天井岳からも360度パノラマの絶景が堪能できる。再び稜線縦走に戻り、右側にお花畑を見ながら燕山荘に至る。

7日目 燕山荘----燕岳----燕山荘----合戦小屋----中房温泉（3：35）

まず、燕岳をピストンする。燕岳は槍ヶ岳の荒々しい山容とは対照的に女性らしい山容をもった花崗

岩峰である。燕山荘に戻り、合戦尾根を中房温泉まで下る。合戦小屋までは展望があるが、そこからは樹林帯に入るので下山パワーを振り絞って硫黄の香りを匂いながら下山します。

■山中6泊7日 予備3日 総コースタイム34:55 内サブザック行動8:55

PL: 吉田拓也

#### iv) 第35回80km耐久徒歩について

80km耐久徒歩が復活し、早くも3年目の年がやってきました。昨年、一昨年と多くのワングル部員、OBの方々に参加して頂きとてもいい80km耐久徒歩となりました。今年も、10月27(土)、28(日)に萩～宇部の80km区間で行います。27(土)に参加者の方々に萩市に集まっていただき、27(日)の深夜に萩を出発し、まずは中間地点である道の駅美東を目指して party ごとに並んで歩いてもらいます。美東からは各自マイペースで宇部を目指してもらいます。マイペースではトップ争いも行われ自分の体力、根性をためすいい機会でもあります。

80kmを通してワングルでつちかった体力、精神力を生かすとともに、更なる向上を目指してほしいと思います。また、主催者側と致しましても、80km耐久徒歩で歩くことの大切さを知ってもらい、1つの目標に突き進んでいく力というものを身につけてほしいと思っております。今年もぜひ、現役部員はもちろん、OBの方々にも多く参加して頂きたいと思います。もう一度、ワングル現役時代にもどったつもりでがんばってみてはどうでしょうか。

今回の80km耐久徒歩に参加される方は、10月10日頃までに工学部主将(原 和義)まで手紙、電話、E-mailのいずれかの方法でご連絡下さい。電話以外でご連絡される場合は、連絡先電話番号を記載していただくようお願い致します。

第35回80km耐久徒歩責任者: 原和義

## OB近況報告

本部34期(平成7年度卒)の林大介さんが御結婚されました。おめでとうございます。

## 編集後記

平成13年度夏のOB通信が出来上がりましたのでお届けいたします。今回は文章の量が増えたため、作業の軽減と経費の節約を目指して、行間を狭くしページ数を減らしました。そのため多少読みにくくってしまったことをお許しください。

このOB通信を作る際に過去のOB通信を読んでいたのですが、一年生の時の自分が書かれている部分がありました。県合で部になじめなかった自分ですが、良い先輩方に恵まれたおかげでワングルを楽しみ、最後までやり遂げることができました。今でもまあ、昔の自分ほどではありませんがワングルになじめない後輩もいて、現在は説得する側に回っています。そんなことがあるたびに、昔は先輩方に迷惑をかけたなあと苦笑しています。

今年度からは3年間顧問をしていただいた田中誠二教授に代わり、本部7期の松富直利教授（農学部）にやっていただくことになりました。また、中四合ワンも岡山大学主管で復活しました。10月に広島県民の森で行われます。

部活は引退しましたが、現役部員達を見ていると無性に山に行きたくなり、夏のアフターに合わせて佐伯と一緒に白馬三山を縦走しようと計画しています。北アルプスはなじみが薄いので今から楽しみにしています。

話は変わりますが、少し前から、居酒屋でバイトを始めました。その店の店長が山仕事をなさっていた方で、10年ほど前に東鳳山遊歩道の整備をされたそうです。地蔵峠から板道峠まで続く階段は全部その方達で作ったとおっしゃっていました。ワングルを、山を通じていろんなところで人間はつながっているんだなあと思った次第であります。

編集：崎間公久、佐伯英敬

